

新たな過疎対策法の制定に関する意見書

過疎対策については、昭和45年に「過疎地域対策緊急措置法」制定以来、3次にわたる特別措置法の制定により、総合的な過疎対策事業が実施され、過疎地域における生活環境の整備や産業の振興など一定の成果を上げたところである。

しかしながら、人口減少と高齢化は特に過疎地域において顕著であり、地場産業の衰退、耕作放棄地の増加、森林の荒廃、医師及び看護師等の不足、駐在所等の廃止や統合など生活・生産基盤の弱体化が進むなかで、多くの集落が消滅の危機に瀕するなど、過疎地域は極めて深刻な状況に直面している。

過疎地域は、我が国の豊かな自然や歴史・文化を有するふるさとの地域であり、また、都市に対して、食糧の供給・水資源の供給、自然環境の保全といやしの場を提供するとともに、森林による地球温暖化の防止に貢献するなどの多面的・公共的機能を担っている。

過疎地域は、国民共通の財産であり、国民の心のよりどころとなる美しい国土と豊かな環境を未来の世代に引き継ぐ努力をしている地域である。また、そこに住み続ける住民にとって安全・安心に暮らせる地域として健全に維持されることは、同時に、都市をも含めた国民全体の安全・安心な生活に寄与するものであることから、引き続き総合的な過疎対策を充実強化させることが必要である。

よって、過疎地域の重要性にかんがみ、次の点について強く要望する。

記

- 1 平成22年3月末をもって失効する現行の「過疎地域自立促進特別措置法」に代わり、新たな過疎対策法を制定すること。
- 2 新たな過疎対策法の制定にあたっては、特に、現行法第33条第2項の規定により過疎地域の指定を受けている区域についても引き続き適用すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成20年 9月29日
豊田市議会

衆議院議長
参議院議長
内閣総理大臣
総務大臣
財務大臣
農林水産大臣
国土交通大臣 様